

Der Wind

(風)



アムゼルコンサート2025

湘南日独協会理事 合唱団アムゼル代表 田中 満穂

コロナの影響で20周年記念コンサートを行う予定が23年目の今年になってしまいましたので、タイトルはアムゼル20周年記念コンサートではなく、団員の知恵袋西川さんのご提案でこのタイトルが決まりました。このコンサートを今年に開くことは24年2月に開かれたアムゼルの総会で決定され、その後、複数回開かれた運営委員会において上記のタイトルで進むことが決定されていきました。このような経過から今年のコンサートに向けて昨年の早い時期から、演奏曲の最終決定に向けあれやこれや曲を練習しながら、漸く今回の曲に集約されることになって行きました。

第1部はアムゼルが主に普段からよく歌うロマン派作曲家の曲から、第2部はいつも伴奏を弾いてくれる内海先生のピアノ独奏を挟み、第3部は20世紀初頭の当時の流行歌、或いは映画音楽からの曲を歌いました。

どれもみな良い曲で親しみのある曲ばかりですが、昨年の練習の時から苦勞した曲はまずはWidmung。2分の3拍子という普段あまり遭遇しない（私だけかもしれませんが）リズムになれるのにまず苦勞するのと、この曲は変イ長調で始まり、途中、ホ長調に転調、最後、また変イ長調にもどるのですが、転調したときの最初の音がなかなか取れず苦勞しました。次に苦戦した曲はZigeunerlebenです。この曲は広く知られた曲でメロディーラインは誰もが知る曲ですが、ドイツ語の言葉をメロディーに当てはめるのが難しく、ここで多くの団員は苦勞していました。これを歌いこなすにはドイツ語の歌詞をほとんど頭に叩き込むしかなく、音符を見ていたら間に合わない状況に落ち込むのでこれが苦勞のもとでした。

それと第1部の曲で苦勞したもう1曲はLerchengesangです。ひばりの羽ばたきのようにテンポの速いこの曲は4声をすべて合わせるのが難しく、なかなか合わないのと、やはりドイツ語の単語を素早く歌わなくてはいけない部分が苦勞をさせられた曲でした。

第3部では今となってはモダンクラシックと言える20世紀初頭の流行歌を歌いましたが、このなかの私の一番好きなWenn der Wind wehtを歌えたのを嬉しく思いました。誰の心にも宿る故郷と幼馴染への積年の思いがこもったこの歌は、歌っているとついつい心が揺れてしまって淡々と歌わねばと心しながら歌う曲です。

Das gibt's nur einmalは私にとってはとても懐かしい曲で、大学1年のドイツ語のクラスでドイツ人教師フェールケン先生によく聴かされた曲でした。調子の良い歌なのでメロディーはもちろん、歌詞もなんとなく覚えていてこれはとても歌い易く、楽しく歌えました。

練習はもう何回も昨年から重ねてきたのですが、今年になって梶井先生が絶望的になられるほどに、コーラスとしては各パートの音程が不正確だったり不安定だったり、ピアノで歌うべきところをフォルテで歌ってしまったり、また、その逆もあったり、3月ころまではどうなることやらと思いましたが、3月からの各パートの猛特訓も功を奏し4月ごろになってようやく少しずつコーラスになってきたという状況でした。

それにしても今回は団員の皆さんはよく頑張ったと思いますし、このアムゼルが2002年以来よく続けられてきたなと思います。これまで情熱を捧げてこられたメンバー、そして何より梶井先生、内海先生、そして、残念ながらすでに旅立たれた元メンバーの皆さまに感謝の念を新たにしたいです。



5月例会

講演「琵琶の話と演奏」

講師 木村 昭子氏 琵琶演奏家・研究家



木村昭子氏

寄稿者 会員 大久保 明

琵琶と言えば、盲目で琵琶を弾き平家物語などを語る琵琶法師が思い浮かぶ、また琵琶と言う楽器は正倉院御物として螺鈿の楽器が有名である。しかし現在においては日常的な出会いは極めて少なく、宮中や神社の行事などに限られているように思う。

この度目の前で、平家物語の一節を聴き楽器を目にした感想を申し上げたい。

まず、演奏者の木村氏は元高校の教師、退職後琵琶に引かれて門下生となり、活動している。本来は口伝であるが現在は譜が作られ、楽譜によって自習も可能とのこと。現在琵琶には平家琵琶、薩摩琵琶、筑前琵琶が主な流派になっており、木村氏は薩摩琵琶とのことであった。ペルシャに起源があると言われる琵琶は絹の四弦、胴体は桑とのことであった。時代を経て三味線が出現したこともあり、琵琶は管理等も難しい楽器であるため、日常的な楽器からは次第に遠ざかってしまったようだ。

有名な壇ノ浦での平家滅亡、安徳天皇入水の場面を語り、関連した「耳なし芳一」そしてそれを世に出した、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の「怪談」まで幅広い講演内容でした。日本の古代ともいえるべき時代に発生した、語り物それから現代の短歌への変遷など思いつく演奏と講演の楽しい時間を過ごすことが出来ました。さらに、日本文化の継承、老いて後の時間の過ごし方など示唆に富んだ例会であったと思います。

6月例会

講演「第二次世界大戦下の欧州邦人 ～ ドイツを中心に ～」

講師 大堀 聡氏 現代史研究家



大堀 聡氏

寄稿者 会員 島 新

講師の大堀聡さんは上智大学ドイツ語科を卒業後、オランダ、ドイツに駐在された。戦時中欧州に暮らした日本人、及び日本に暮らした外国人について調べ研究された現代史研究家である。

ヨーロッパで日本人は華やかな洋行や駐在員としての優雅な暮らしをしていたが、戦争が始まると、一転、不自由な暮らしとなり、戦火を潜り抜け、まさに着の身着のままで日本に引き揚げた。ドイツにいた人が戦後日本に戻ってきて、その人たちから講師が直接聞いた話や、日記を見せてもらった話などの内容を織り交ぜながら、お話しいただいた。

戦争が終結した1945年には、欧州には凡そ900人、その内ドイツに家族を含め542人の邦人がいた。敗戦と共に邦人は、米軍ではなくソ連軍に捕まり、日本に引き揚げた。欧州の戦争をこれまでの欧州人の視点とは全く異なる日本人の視点で知ることが出来た。



居酒屋での懇親会後

ドイツ語講座秋冬期10/18 (土) 開講！

来る10/18 (土)よりドイツ語講座秋冬期が開講します。コースは『新・ドイツ語入門（毎週）』、『初級後半（隔週）』、『初級後半会話（隔週）』、『中級Podcast（隔週）』、『中級会話（隔週）』です。すべて春夏期からの継続コースですが、途中からの参加も可能です。是非いっしょにドイツ語を学びましょう。

湘南日独協会Bierfest -2025のご案内（詳細は同封チラシを参照下さい。）

ちょっと遅めの昼食になりますが、乾杯・食事に続いて、BGMに合わせて楽しいドイツの歌を皆で歌います。飲んで歌ってオクトーバーフェストの雰囲気を楽しみましょう！

日時：10月11日（土） 14:00- 17:00

会場：フレンチ・レストラン「ラ・シャンブル」（JR藤沢駅南方） 貸切り

会費：¥6,000（飲物付き） 振込先： ゆうちょ銀行 口座番号 00210-9-22718

参加申込：振込用紙にお名前・お電話番号を明記の上、10/5 までに会費をお振込み下さい。

但し、振込み期限に拘わらず、定員に達し次第締め切りますので、お早めに！

右のQRコードからでも申し込みます。

お問合せ先： 湘南日独協会事務局 Tel 0466-26-3028 E-mail: jdgshonan.official@gmail.com



申込フォーム

7月例会

講演「英国料理はいかにして消滅したのか、 イングリッシュ・ティーはなぜ好まれるのか？」

講師 小野塚 知二氏

東京大学名誉教授、東京大学特任教授



小野塚 知二氏

寄稿者 会員 星野 諭

「音楽の天才は数多いが、
神童と呼べるのはモーツァルト、メンデルスゾーン、ビゼーの3人だ」というのは今回の講師、小野塚知二教授の半世紀来の持論である。

今回の講演では歴史、地理、産業、経済、自然科学、思想、芸術、農業、料理など、およそあらゆる分野における彼の博識ぶりが遺憾なく披露された。しかし彼はまた管楽器や鍵盤楽器の演奏を愛好する音楽家でもある。ピアノの先生をなさっている奥様とは時折連弾も楽しんでいる。

英国では15世紀末からの農業革命であるエンクロージャーによって、多くの農民が土地を奪われて都会に移り、下層労働者として産業革命の担い手となった。その結果、長年地域ごと、村ごと、家庭ごとに培われ、受け継がれていた料理法も、地域で用いられた季節性のある豊かな食材も失われてしまった。地域文化のゆりかごである「お祭り」が消滅したことにより、郷土料理の食文化や、それを担う才能ある料理人を発見する機会も失われてしまった。都会には英国政府の自由貿易政策によって世界中から輸入された安価な穀物・野菜類や肉・魚類が豊富に出回り、庶民の食事はそうした食材を適当に組み合わせるカロリー重視のものに一変してしまった。

中産階級以上の成人男性はクラブで密談する際にフランス料理やイタリア料理などを静かに食べた。が、そうした裕福な家庭でも家計は主人が握っていた。奥方は安価で手軽に準備ができるティー・パーティーを盛んに開き、人脈を拡げて子女の縁談をまとめるのを身上とした。こうして「まずい英国料理」と「美味しいイングリッシュ・ティー」という文化が現代まで続くこととなった。

こうした社会の変革に伴い、一方では上流および下層階級による「享乐的で猥雑な生活規範」が生まれ、他方では人口増加率の上昇にともなって中産階級および労働者階級上層による「禁欲的で清潔な生活規範」が生まれた。この二つはドイツの場合地域的にも分化し、19世紀後半には、「禁欲的で清潔な生活規範を旨とする北」が政治的・経済的に勝利してドイツ帝国を形成する。

そして文化の担い手は「享乐的猥雑な生活規範を旨とする南」が主役となり、ウィーンや南ドイツで多くの作曲家が活躍する。その中で例外的に北で活躍したのがメンデルスゾーン（1809-1847）で、小野塚教授は彼の早世を大いに惜しんでいる。

日本で失われつつある食文化を復活させるにはどうすれば良いか。これについて小野塚教授は「地域の祭りに替わるものとして、アートフェスティバルを各地で開き、高齢者のノウハウを掘り起こす」「エネルギーを含めた食料自給率を高める」「イタリアのスローフード運動のように郷土料理に付加価値を付けて売る」等の処方箋を述べる。かつてエスコフィエのフランス料理の技はロンドンのホテルや、客船の上でみがかれ、そしてその技は大著にまとめられた。今や日本料理も言語化して、まがい物化を防止する必要があると小野塚教授は言う。

当日は日本紅茶協会のティー・インストラクターの皆さんや、演題に興味をもたれた多くの方々にお越しいただきました。あらためて感謝申し上げます。

☆☆☆

新部会を立ち上げます！11/9（日）15:00～ 『動画で学ぶドイツ-映像研究会-』

この度湘南日独協会では、ドイツに関する様々な動画（ドキュメンタリー、映画、ドラマ、芸術パフォーマンス、その他）を通じてドイツ語、ドイツの文化・社会・歴史について学ぶ、新たな部会を立ち上げることとなりました。活動日時は毎月第2または第3日曜日の午後3時～6時、場所はミナパーク（藤沢）です。参加登録を希望される方は星野（sean.hoshino@gmail.com）までご連絡ください。登録された方には活動予定等をお知らせします。

新入会員紹介： 中田 勉様 松田 暁子様

寄付金者名：

今年度前半下記の皆様に寄付金を頂きました。
感謝申し上げます。

大久保明様 奥山富雄様 勝亦正安様 島 新様
清水孝祐様 西山忠壬様 能登 崇様 藤野 満様
大堀 聡様

編集後記： 5月のアムゼルコンサートには私もステージに立ち感激しました。次のコンサートと一緒に歌いませんか？この秋は新しいプログラムが発足します。多くの皆さんと新しい喜び楽しみを共にすることを願っています。酷暑も終わります。皆さんにお会いするのが楽しみです。（大久保）

湘南日独協会催事カレンダー(2025年9月～2026年1月) 9月1日現在の情報です

09月	見て聴いて楽しむ音楽史 (第32回)	11日 (木) 14:00-16:00 ミナパーク 302 会費: 1,500円 演題: 美しいフランスの音楽 講師: 高橋善彦氏 (会員 湘南日独協会常務理事) 取り上げる曲: ドビュッシー「小組曲」、サン＝サン＝サン 交響曲第3番「オルガン付き」
	読書会	08日 (月) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円 22日 (月) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円
	談話室SAS	09日 (火) 15:00-17:00 ミナパーク M2 会費: 1,000円
	SWZ	18日 (木) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円
	講演会	21日 (日) 15:00-17:00 ミナパーク 505 会費: 1,500円 演題: 「世界を歪める陰謀論・真実とリアリティー (アルゴリズム・AIの危険性)」 講師: 林薫氏 (グローバル・ラーニング・サポート・コンサルタンツ代表 元立教大学教授) 概要: 今から四半世紀前、ICTが急速に発展し、情報交換の機会の拡大が明るい未来を創るという楽観的な見通しがあった。だが、現在では新たな脅威が現実になり、アルゴリズムがこれに大きな役割を果たし、AIの危険性も議論されてきている。AIを適切にコントロールし、破局的な結果を回避するための方策について考えていく。 懇親会: 有り
	藤沢国際交流フェスティバル	26日 (日) 11:00-15:00 JR藤沢駅北口サンパール広場 当協会のブースあり アルプホルン演奏等あり
10月	鎌倉国際交流フェスティバル	09日 (日) 10:00-15:00 高德院 (鎌倉大仏殿) 当協会ブース無し アルプホルン演奏等あり
	見て聴いて楽しむ音楽史 (第33回)	09日 (木) 14:00-16:00 ミナパーク 303 会費: 1,500円 演題: ブラームスの音楽 講師: 高橋善彦氏 (会員 湘南日独協会常務理事) 取り上げる曲: ブラームス 交響曲第2番、ハンガリア舞曲第1番
	読書会	13日 (月) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円 27日 (月) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円
	談話室SAS	07日 (火) 15:00-17:00 ミナパーク M2 会費: 1,000円
	SWZ	16日 (木) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円
	Bierfest-2025 飲んで歌って楽しもう	11日 (土) 14:00-17:00 Bistro La Chambre 会費: 6,000円 (食事、飲み物付き) 会報記事及び同封チラシを参照下さい
11月	見て聴いて楽しむ音楽史 (第34回)	13日 (木) 14:00-16:00 ミナパーク 302 会費: 1,500円 演題: シューベルトの音楽と美しき小品 講師: 高橋善彦氏 (会員 湘南日独協会常務理事) 取り上げる曲: シューベルト 交響曲第7番「未完成」、マスカーニ「カバレリア・ルスティカーナ」間奏曲、ラヴェル「亡き王女の為のバヴァーナ」、ヴォルフ・フェラーリ「マドンナの宝石」、ヘンデル「オンブラ・マイフ」等
	読書会	10日 (月) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円 24日 (月) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円
	談話室SAS	11日 (火) 15:00-17:00 ミナパーク M1 会費: 1,000円
	SWZ	20日 (木) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円
	講演会	23日 (日) 15:00-17:00 ミナパーク 505 会費: 1,500円 演題: 「今、読み直すエンデの『モモ』」 講師: 寺田雄介氏 (会員、山梨大学准教授) 概要: 童話作家として名高いミヒャエル・エンデは、ヴァイマル共和国に生まれ、ナチス・ドイツ、東西ドイツ、そしてドイツ再統一という激動の時代を生き抜いた。政治的・経済的な混迷と「経済の奇跡」の両方を肌で知る彼は、経済理論書を読んでいたことでも知られている。SDGsの概念が普及した今改めて『モモ』を読み直すことで、エンデが描いた時間と貨幣のパラドックスに気づくことが出来ます。 懇親会: 有り
	見て聴いて楽しむ音楽史 (第35回)	11日 (木) 14:00-16:00 ミナパーク 302 会費: 1,500円 演題: 美しいバロック音楽 (#2) 講師: 高橋善彦氏 (会員 湘南日独協会常務理事) 取り上げる曲: ヴィヴァルディ「海の嵐」、2本のトランペットの為の協奏曲、バッハ管弦楽組曲第2番他
12月	読書会	8日 (月) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円 22日 (月) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円
	談話室SAS	09日 (火) 17:00-19:00 レストラン (未定) 会費: 未定
	1月の行事は項目のみ記載、詳細は12月に発行予定の次号に掲載予定	
01月	見て聴いて楽しむ音楽史 (第36回)	08日 (木) 14:00-16:00 ミナパーク 302 会費: 1,500円
	読書会	12日 (月) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円 26日 (月) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円
	談話室SAS	13日 (火) 15:00-17:00 ミナパーク M2 会費: 1,000円
	SWZ	15日 (木) 15:00-17:00 ミナパーク 506 会費: 1,000円
	講演会	25日 (日) 15:00-17:00 ミナパーク 505 会費: 1,500円 演題: 「シャーロック・ホームズ魅力の世界、そのトリックは成立するのか」 講師: 田中喜芳氏 (シャーロック・ホームズ研究家、人間行動学博士)

参加される皆様へ 準備の都合上、早めにお申込ください。

各催しは変更される場合があります 最新の予定を当協会のホームページでご確認ください。

URL: <https://jdg-shonan.ciao.jp/>

右記のQRコードからもアクセス出来ます。

